

ヤマト福祉財団 NEWS

ヤマトグループ賛助会員向けニュース(季刊)
発行部数12万部・非売品
YAMATO WELFARE FOUNDATION

No.41

1月20日発行 2014 Winter

第14回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞贈呈式
**「働きたい」は
誰でも同じ**
一人ひとりの力に合わせ
精神障がい者の働く場をつくる



写真前列左より受賞された風間氏ご夫君、風間美代子さん、熊田芳江さん、熊田氏ご夫君 後列左より森下明利ヤマトグループ企業労働組合連合会会長、瀬戸 薫ヤマトホールディングス株式会社代表取締役会長、有富慶二ヤマト福祉財団理事長、木川 眞ヤマトホールディングス株式会社代表取締役社長、山内雅喜ヤマト運輸株式会社代表取締役社長



東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金
助成先を訪ねて

復興へ
希望の種を蒔く p08

私たちの賛助会費が活かされています
■障がい者福祉助成金 助成先レポートVol.18 (栃木県小山市)
シイタケ栽培で稼ぐ!
いいものを作って売り切るまでが農業 p10

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便配達
お給料が増えるほど、夢もふくらんでいく。 p12

「働きたい」は誰でも同じ

一人ひとりの力に合わせ
精神障がい者の働く場をつくる



「副賞は、利用者が待ち望んでいるPCの買い換えに充てます。みんな大喜びです！」 風間美代子さん



「成果を年々高めているのは、風間さんの優しさと起業の動機が正しいからに他なりません」 風間さんを推薦した法政大学大学院 教授 坂本光司さんが欠席のため、同大学院中小企業研究所特任研究員 坂本洋介さんが代読



「今年も熱心な、というか激烈なやりとりが選考委員会では繰り広げられました。それほど皆さん素晴らしかった」 選考委員を代表して、ダイヤル・サービス株式会社 代表取締役 今野由梨さん

2013年12月3日
東京・日本工業倶楽部



今年で第14回を数える小倉昌男賞は、障がい者の経済的自立に尽力し、成果を上げられた方々を表彰するものです。受賞されたのは昨年につづき女性お二人。「NPO 法人 多摩草むらの会」の代表理事・風間美代子さんと「社会福祉法人こころん」常務理事・施設長の熊田芳江さんです。ともに精神障がい者の支援に力を入れていらっしゃいます。

「障がいのある方は日本にどれだけいらっしゃるのでしょいか？」有富慶二財団理事長のこんな問いかけから贈呈式は始まりました。「約800万人です。日本の人口は1億2700万人ですから、6%強です。身体障がいの方がそのうちの50%。精神的な障がいをお持ちの方が40%の320万人。残りの10%、すなわち80万人が知的障がいの方です。精神障がいは一見して分かりませんし、入院や通院している患者数をもとにした数字ですので、精神障がいの方はもうすこし多く、実際には50%近くになるのかもしれない」と指摘しました。そのうえでお二人の業績を、

「精神障がい者で一般企業に勤められている方はまだ少なく、難しい側面もあるようです。しかし、今回受賞されたお二人は、そんな精神の方への支援を中心に、がんばっていらっしゃいます。しかも、かたや300名、かたや150名という規模で利用者を抱えているのです。全国の福祉施設

で工賃を得ている人の数は平均を取れば、1施設約30人ですから、すごいことだと感心せざるを得ません」と讃えました。

風間さんはご家族の障がいをきっかけに、同じ境遇の仲間たちと「NPO 法人 多摩草むらの会」を立ち上げました。およそ15年前のことです。設立当初は苦勞の連続でしたが、施設側の都合ではなく障がい者一人ひとりの個性を重んじ、その希望や個性に合わせた事業展開を次から次へと行い、飲食店、農園、パソコン事業、和菓子製造、レストラン、ファブリック縫製など8カ所の事業所を設置。利用者300名超という都下でも最大級の就労支援施設・支援機関にまで規模を拡大されました。

一方の熊田さんは、福島県南部の泉崎村を拠点に、精神に障がいのある方たちが地域の中でいきいきと働くだけでなく、そこに地元住民の方もいっしょに参加して、地域おこしにつなげていく活動を続けています。その一つの形である「里山再生プロジェクト」は東



祝賀会に駆けつけた、厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部長の蒲原基道さん

※障がい者数：社会保障審議会障害者部会（第50回）平成25年7月18日資料
総人口：総務省統計局人口推計（平成25年8月概算値）平成25年8月20日公表



「一見すると、ごくごく平凡な人に見えるが、やり遂げた仕事は非凡。言い換えると、熊田さんはもともと恐ろしくない、恐ろしい人(笑)」熊田さんの推薦人の一人、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター 主任研究員 野中由彦さん

「被災時には、ごころんの職員と利用者をお総動員して、おにぎりや味噌汁を作り、地域や関係者に配られました。あれほど、ほっとしたことはありませんでした。」熊田さんを推薦された利用者保護者の田中志保美さん



「ごころんは今年で10年目を迎えました。こうした時期にすばらしい賞をいただき、たいへん喜ばしい節目となりました」熊田芳江さん

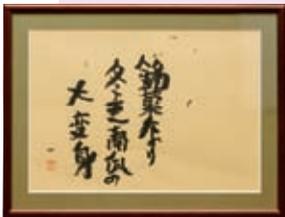


北経済産業局の農商工連携補助対象事業に選定され、地域の農業生産法人、酒造蔵元と手を取り合っで、酒米作りから新銘柄の販売までを成し遂げました。日本のみならず世界からも優れた事業モデルとして注目を集めています。

お二人には賞状ならびに正賞の母子ブロンズ像「愛」が、そして副賞として賞金100万円が贈呈されました。また小倉昌男賞になくしてはならぬお祝いの俳句も、米寿を迎えられた花田春兆さんから寄せられました。

期せずして、精神障がいの方への支援のすばらしいお手本となるお二人が揃い、この10年、15年の進展の大きさを頼もしく感じた、本年度の小倉昌男賞でした。

銘菓なり
冬至・南瓜も
大変身
花田春兆



熊田さんは、年齢こそ相応に開いてはいますが、「戦後の永い歳月を、一貫して在野で通し、地域団体を拠点に活動し続けながら、その中で時に応じて、さまざまなお試みを実施され続けて来られている。」と、並べ上げられると、経済観念や規模の大きさに雲泥の差はあっても、共通点のいくつかは私にもありそう。勝手に親しみを倍化させ、お会いするのを、余計楽しみにしています。

それは良いのですが、それも原因して、例年になく俳句に迷った。特に熊田さん。最初は上映された朝市や養鶏場の映像に惹かれて、授賞重ねて祝う会津のくるみ餅

歳祝うみんなお出でよ人も鶏(とり)も
と、浮かんだが、中通りは正式には会津と呼ばないようだ、と、早川さんに注意されて、相馬 白河 みちのく、としてみても、どれもヒットしない。結局ご本人の熊田さんまで煩わして、素材の南瓜に変身願って、漸く落着く。こんなお粗末な一幕があったのも、今年を余計に親しみ深く、忘れられない年にしようと思わせます。

とんだ楽屋話で終わりそうですが、お祝いする気持ちに変わりはありません。改めて、おめでとうございます。

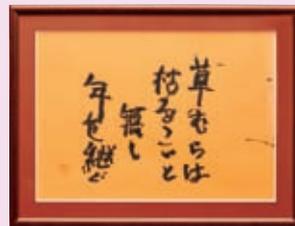


風間さん。多摩地区といえ、半世紀前後昔、戦後いち早く新しい福祉社会への道を切り拓いた、美濃郡都政スタートの拠点地域として、憧れてもいた、私たち戦後世代の障がい者にとっては、まさにメッカでした。その印象は、今も鮮明に甦ってきます。

その多摩に当初からおられて、以後絶えることなく、一貫して継続されているのに、東京の西と東、親と子の違いはありながらも、同じ障害者福祉の世界を、時を同じくして、生涯をかけて迎えるという、相似た人生を生きてきてきているのに、何故か、不思議に、呼び合っている機会に恵まれず、未知のままに過してしまっていたことも、却ってお会いしたことを喜ばせ、親しさを増していくようにも思われてなりません。



草むらは
枯れること無し
年を継ぐ
花田春兆



受賞者を訪ねて

心安らぐ場という入口から
自立という夢のゴールまで

精神障がい者に必要なものはすべて用意する
草むらじゅうりの理念を貫く 風間さんを訪ねました。

多摩草むらの会の多様な活動

風間さんらが、「多摩草むらの会」を発足させたのは1997年。グループホーム運営を目指し、任

意で活動を開始しました。事業展開が加速したのは、2004年。NPO法人格の取得をきっかけにグループホームと寒天茶房「遊夢」を開設以来、10年を経ずに、

7か所のグループホーム、8か所の働く場（就労継続A・B型）さらに相談支援センターを擁し、利用登録者318人、職員数131人という規模に成長しました。

特定非営利活動法人

多摩草むらの会

代表理事 風間美代子さん

DATA

〒206-0034
東京都多摩市鶴牧1-4-10
アネックス鶴牧101
TEL: 042 (339) 8022
FAX: 042 (339) 8025



写真上:「畑deきゅちん」は、屋内ながらも販売スペースも設け開放的な雰囲気。写真左:風間富重さんは、自ら拓いた「夢畑」の施設長として美代子さんを支えています。写真右:利用者も職員もここでは同じスタッフです。

働く場も、飲食店、農園、パソコン事業、和菓子製造、レストラン、ファブリック縫製など幅広く事業化していますが、きっかけはすべて当事者の「やってみよう」という希望からです。「もつとたくさんの草むらがあつたら、人参畑に人参を取りにいけるの。」精神障がい者の気持ちに野兎にたえた理念が原動力となつていま

胸をはってできる仕事を

寒天茶房、無農薬農園、野菜料理、まんじゅう製造など特徴のある事業活動も、もともとは当事者の健康を気遣って始めたことばかりです。回復に向かい食事にかけてくれるようになった当事者に多い肥満を解決するためにメニューに寒天を取り入れ、無農薬野菜や菌床シイタケ栽培の農園で体調を見ながら就労。パソコン工房で就労のためのスキルを磨くこともできます。もつと働きたい人には、和菓子製造やレストランで働く道も選べるようになりました。「本人のプライドも保てるような仕事の提供が大切。これがお店づくりの秘訣です。」風間さんは、そうい

います。

本物志向を貫く「畑deきゅちん」と「夢うさぎ」

多摩センターにある商業施設ココリア多摩6Fのレストランフロアに今夏新たに開店した「畑deきゅちん」は、野菜料理を前面に打ち出し、中高年の夫婦連れや女性客をターゲットにしたレストランです。健康志向が受けて連日満員。夜10時までの営業で、グループでの利用も楽しめるように工夫されています。「夢うさぎ」では、麴を使った本格的な酒まんじゅうを作っています。店内にはおまんじゅうの甘い香りが漂っています。



「夢うさぎ」は、いかにも和菓子店という店構えでお客様をお迎えしています。お店の質を高めることも支援職員の重要な仕事になっています。

受賞者を訪ねて

住みなれた地域で

当たり前前に暮らしたい

地元農家や一般市民との交流から始まり、経済活動による
コミュニティ作りで地域に貢献する 熊田さんを訪ねました。

社会福祉法人 ころん
常務理事・
施設長 熊田 芳江さん

DATA

社会福祉法人ころん
〒969-0101
福島県西白河郡泉崎村大字
泉崎字下根岸9
TEL: 0248 (54) 1115
FAX: 0248 (53) 3063

福島県南部の精神障がい者の
暮らしのために

熊田さんが現在の法人の前身で
あるNPO法人「こころネットワ

ーク県南」を設立したのは
2002年。精神病院しかなかつ
た地域で精神障がい者を支援する
ための地域づくりから始まりまし
た。高齢化している地元農家と精

神に障がいのある人たちが連携
することで信頼を得て、経済活動
と地域貢献の連動モデル「里山再
生プロジェクト」が始動。「直売
カフェこころや」がその拠点とな



写真上:「チャレンジショップにこここ屋」の店内(白河市本町)。写真左:「直売カフェこころや」は通りの左側に面し、車で入りやすくなっています。(福島県泉崎村川畑37)写真右:とれたて野菜がならぶフランスのマルシェを意識した「直売カフェこころや」の店内。

りました。
色とりどりの野菜が並ぶ直売所
取材当日訪れた「チャレンジシ
ョップにこここ屋」は白河市内の
旧市街地にある空き店舗を利用し
た出張販売所。毎週木曜日に開店
しています。ならんでいる野菜や
お惣菜はすべて地元農家がこころ
んに持ち込んだもの。安くて良い
ものから売れるという市場の原理
が働くので持ち込まれた野菜や果
物はどれも安くて立派なものばか
りです。
開店前から待っているお客さん
や、買い物のお茶を楽しみに
している高齢者の姿もあり、まぎ
に地域のコミュニティとなってい

ました。
養鶏場・果樹園から6次産業へ
こころんの利用者の働く場は、
地元農家の事業継承として始めた
養鶏場や休耕田を利用した果樹園
などの農作業に加え、菓子工房・
レストラン・直売所と幅広く用意
できるようにしました。本人の
希望に沿った働き方ができるよう
になっているほかに、施設の資源
を販売・営業拠点として地元の生
産者・加工業者にも利用してもら
うことで、地域にも貢献していま
す。
差別や偏見の不安もなく、住みな
れた地域で暮らすことができるよ
うにという願いが見事に具現化さ
れていました。



酒蔵大木代吉本店で囲炉裏を囲む熊田さん(中央)。大木代吉会長(左)は、「里山再生プロジェクト」として震災前から連携してきた間柄。推薦者の田中志保美さん(右)もここで働いています。



受賞のことば

彼ら障がい当事者に比べたら
悩むことなんかなにもない。
すべてが楽しいチャレンジでした。

就労しても10年して戻ってくる方も
いれば半年で戻ってくる方もいます。
精神障がいには状態が安定しないのが、
どの障がいよりも特徴的です。そして
見た目は変わらない。心も精神も目で
見ることはできません。また途中障が
い、思春期での発病が多いのも特徴で
す。勉強もできたやさしい人たちです
が、病気を機に世界ががらりと変わっ
てしまう。それは彼らのせいではなく、
彼ら自身はもちろん、親もなぜこんな
ふうになってしまったのかと深く悩み
ます。途中障がいの惨めさです。
そんな彼らをどう支援したらいい
か？ 彼らが望むものはなにか？ 生
きることを止めてしまった彼らに「も
う一度、生きていいんだ」と心から思
ってもらいたい。

彼らが一番望んでいるもの、それは
自立です。親に一生、迷惑をかけて生
きていくのかな？ どうすればお金を
稼げるのかな？ やはり経済の自立な
くして、本当の意味での自立はありえ
ません。ですから、彼らがプライドを
持って働ける場が必要でした。1時間
働いて、その時給で缶ジュース一本飲
めないなんて、そんな馬鹿な話あり
ません。
現在の夢は大きな老人ホームを作る
こと。彼らが入れるようなホームは日
本にまだありません。両親とも別れて
最後、また病院に彼らが戻るようなこ
とはさせたくない。私は超楽天的なの
で「夢は必ず実現させる」と決めていま
す。露天風呂付きで(笑)。3年後ぐらい
を目標に、ただただ行動あるのみです。



風間美代子さん
特定非営利活動法人
多摩草むらの会 代表理事

1961年、学生時代より肢体不自由児ポ
ランティア活動に関わる。92年、子息が
入院していた国立精神・神経センター武
蔵病院の家族会「むさしの会」を立ち上
げる。97年、「草むらの会」発足、副会
長就任。清掃やバザーでの飲食提供で収
益活動を開始。04年、特定非営利活動法
人「多摩草むらの会」設立、理事に就任。
グループホームや飲食の事業所をオー
プン。以降、事業を勢力的に拡大。13年、
A型事業所をココリア多摩センターに開
所。



受賞のことば

受け取るだけだった福祉から
地域や企業にもなにかを返せる
そんな対等な存在になりたい。

約15年前、とあるセミナーが私の福
祉観を激変させました。ヤマト福祉財
団のパワーアップセミナーです。小倉
初代理事長も研修の間ずっと参加され、
「作業所であっても経営の力を備えなけ
ればいけない」と、その経営ノウハウ
をつまびらかに教えてくださいました。
福祉の場で「稼ぐ」という言葉は使え
ない時代でしたが、私には腑に落ちま
した。
そして10年前、私たちは精神障害者
地域生活支援センターを立ち上げるの
ですが、記念の講演会をきょうされる
藤井克徳さんをお願いしました。「障
がい者が住みにくい地域は、もろくて
弱い社会である」との言葉に、以来「障
がいのある人もない人も住みやすい地
域づくり」を私たちの目標に掲げました。

世の中にはおかしいと思うことが
多々あります。たとえば、病気を抱え
ながら働いている人はごくふつうにい
ますが、「精神障がい」は、なったら一切
働けない。そんな考え方がまかり通っ
ています。私は農家の生まれですが、
野菜もいつからか「同じサイズ、形で
なければダメ」だといっています。調理で
は刻んでしまうのに・・・。そうした
矛盾への不満が、私のひそかな原動力
になっていくようです。
「食の安全安心と誰もが暮らしやすい
地域づくり」活動のベースは、この10
年である程度叶いましたが発展はこれ
から。被災に際してはさまざまな方と
出会い、ご支援もいただきました。こう
した体験を次世代の人たちにも伝えて
つ、努力していきたいと思っています。



熊田芳江さん
社会福祉法人こころん 常務理事・施設長

1999年、精神保健福祉士、取得。02年、
NPO法人「こころネットワーク県南」設立。
04年、生活支援センター「こころん」開設。
05年「里山再生プロジェクト」始動。06年、
グループホーム、多機能型事業等を開始。
「直売カフェこころん」オープン。10年、
養鶏事業を開始。12年、大木代吉本店と
6次化事業として「玉子酒」商品開発。
13年、バケレルモニター設置し、全品検
査導入。こころん工房「かぼちゃプリン」
がスイーツ甲子園出場。

利用者さんの給料増額を目指して

ジャンプアップ助成金の贈呈式を開催

10月25日、実践塾第2回合同研修会で『ジャンプアップ助成金』の贈呈式を行いました。この助成は、利用者さんの給料増額を目標に事業計画を立てた事業所の中から選考を行い、上限500万円を支援するものです。

各事業所の頑張りを伝えて
応援する気持ちを高めたい

ジャンプアップ助成金の対象条



助成先選ばれた七つの事業所

件は、利用者さんの平均給料が2万円以上、さらなる給料増額に向けて総事業費500万円以上の事業を平成26年3月までに開始する事業所です。

贈呈式には、助成先選ばれた七つの事業所や関係者が集まりました。来賓のヤマトグループ企業労働組合連合会 森下明利会長より「私たちは、毎年『夏のカンパ』として、ヤマトグループ30社で働く組合員からカンパを募り、今年で27回目となります。私もそうですが、多くの組合員は宅急便を届け、お客さまに喜んでいただいているこの仕事にやりがいを感じています。そして、もっといろいろな形で人に役立つことに参加・応援したいとい



ヤマトグループ企業労働組合連合会 森下明利会長

う強い気持ちも持っています。みなさんが頑張る姿を組合員に伝えることで、みなさんの考えを理解でき、応援する気持ちもより高まっていくはず。私たちは、みなさんのこれからの活躍に注目しています」と挨拶がありました。

給料増額という結果を出し 他の事業所の良い見本に

その後、今回、助成を受ける七つの事業所が、新たに挑戦する事業や目標などを発表しました。その内容を聞き、有富理事長は「今年9件の助成先を予定していましたが、最終的に7件になりました。先ほど森下会長がお話しされたように、このお金は天から降ってくるものではありません。財団では、59件の助成申請の中から『きちんと計画がなされているか、内容に整合性があるかなど』を検討し、14件まで絞り込み、さらに選考委員が協議を重ねました。実

平成24年度 ジャンプアップ助成金の助成先

法人名	申請事業所	助成金使用用途
NPO 法人 コミュニティワークス	地域作業所 hana	飲食店を主体とした事業所の建築費用
社会福祉法人 市川レンコンの会	第1レンコンの家	トラックと紙枚数計数機の購入
NPO 法人 レスパイトケアはちもり	農園森のこびと	農業ハウス・物置・水道完備の作業環境整備事業
NPO 法人 気塾	ワークハウス塩苅苑	菌床椎茸栽培ハウス資材・暖房設備・重量式選果選別機設置
社会福祉法人 新潟市中央福祉会	ワークセンター日和山	クリーニング事業における私物専用乾燥機の設置
NPO 法人ピアファーム	ピアファーム	新品種梨の導入事業
社会福祉法人 よさのうみ福祉会	野田川共同作業所	九条ねぎ育苗ハウスの設置



挨拶する有富理事長

際にその事業所を訪ね、このお金を使って本当に給料が増やせるかどうかを厳しく見極め、決定しています。こうして選ばれたみなさんだからこそ、利用者さんのお給料増額」という目に見える結

果をしっかりと出せるように頑張っていたのだと思います」と、各助成先を激励しました。

また、この贈呈式には、『夢へのかけ橋 実践塾』の塾生が参加。各助成先の事業計画について熱心に耳を傾けていました。

「今回、助成を受ける七つの事業所は、現段階で平均約3万円の給料を達成しています。自力での数字を出せた訳です。塾生たちは、これを良い見本として、まずはそのレベルに到達するにはどうしたらよいかを自ら考え、今後の勉強を進めてほしいと思います」と有富理事長は、塾生に呼びかけました。

東日本大震災 生活・
産業基盤復興再生募金

助成先を訪ねて



復興へ 希望の種を蒔く

被災地では、多くの可能性を視野にさまざまな試みが行われています。七ヶ浜町では、ノリの養殖以外にもアサリやナマコ、ヒラメなどの放流も行い、水産業の夢を広げる、そんな「希望の種」を蒔くアイデアもあがっています。



カキ殻の培養棚は地元の方が手づくりで行う

[七ヶ浜町水産振興センター建設事業]

(第4次助成)宮城県漁業協同組合

自分たちの 海に適した種苗で 「みちのく寒流のり」 ブランドの確立へ



【新施設】
●鉄筋コンクリート造、地上3階 ●敷地面積：3,162㎡
●延床面積：1,842㎡ ●作業管理棟・ノリ系状態培養棟・栽培種苗生産棟・資材・機材保管庫
※作業管理棟3階に避難所を設置

待ちに待った県内唯一の
ノリ種苗施設がやっと復活

2013年10月19日、地元の養殖ノリ生産者たちが待ち望んでいた「七ヶ浜町水産振興センター」がついに完成。竣工式で宮城県漁業協同組合(以下、宮城県漁協)の経

営管理委員会菊地伸悦会長は「本施設を最大限活用し、技術開発に取り組むことが、真の意味でのブランド力の向上につながると確信しています」と挨拶しました。宮城県漁協では、水産業復興の旗印にみちのく寒流のりのブランド化を掲げています。しかし、県内



宮城県漁協のみなさん(前列左の佐々木さん、後列左の菅原さん、その隣の小野理事にお話を伺った)

で唯一ノリ種苗を生産し、マコガレイの種苗、ヒラメやホシガレイなどの中間育成も行っていたこの施設は、津波に機能のすべてを奪われました。

「震災から3日後、やっと水が引き施設に入ってみると、大切に育てていたノリ系状態のフラスコは跡形もなく流されてしまいました」と宮城県漁協の小野秀悦理事は、当時を振り返ります。地元で養殖ノ



完成を記念して建てられた竣工碑

リ生産者も甚大な被害を受け、事業を再開できたのは44人、以前の約6割近くまで減少しました。それでも「自前のノリ種苗で育てた本物のみちのく寒流のりで再出発したい」と願うノリ生産者の思いに応え、施設の再建を進めてきました。

ところが、なかなか着工できなかったと小野理事は話します。県が防潮堤を建設するのに、この施設があると海から工事を行わなければならないため、着工を1年延期しました。「しかもその間に資

材が3割以上も高騰してしまったのです。でも自前のノリ種苗を生産者に提供することがこの施設の使命ですから、嘆いてなどいられません。最終的には、以前に比べ規模で1.5倍以上、ノリ種苗用の培養水槽は102基、また海水の殺菌や水温のコントロールなどの設備も強化した新施設として完成することができました。

地元環境に合った系状態と 最適な培養設備を整備

「地元のノリ種苗にこだわるのは、養殖するその海環境に合わせた種苗を使うと、ノリの色、光沢、歯触りがまったく違ってくるからです。私たちは、七ヶ浜の海に一番適したノリ系状態を選び、培養し、生産者に提供していきます」と小野理事。

系状態とは、ノリ種苗の元株です。最適な系状態を選定し、ノリの胞子をたくさん蓄えるまで培養してから生産者に提供。生産者は、こ

養殖用のノリ種苗の元株である糸状体、放流するアサリやナマコなどの稚貝・稚魚を育てる

アサリ種苗の生産



浮遊幼生を飼育するタンク



着底できる状態にまで育てる



着底稚仔の育成タンクに移し稚貝にまで育ててから放流

ノリ糸状体の培養



七ヶ浜に適した糸状体を選定



カキ殻の棚で糸状体を培養



糸状体がたっぷりノリの胞子を蓄えたら養殖業者に出荷

の糸状体を使って採苗し、七ヶ浜の海で養殖をはじめます。「糸状体を安定して育てるには、どのような設備を整えるか、国内最先端とされる兵庫県の種苗センターを参考にし、良いところ取りで設計しました」と菅原潤さんは話します。画期的なのは、床全面に床暖房システムを導入したことです。日本最北端のノリ生産地となる宮城県は、冬の海水温は6℃前後。海水殺菌装置を通した海水を水槽に入れておくと1℃くらいまで下がり、凍結することもありません。このままでは糸状体の成長は止まってしまうため、より効果的な方法はないかと検討していく中、床暖房に着眼。厳しい冬場で

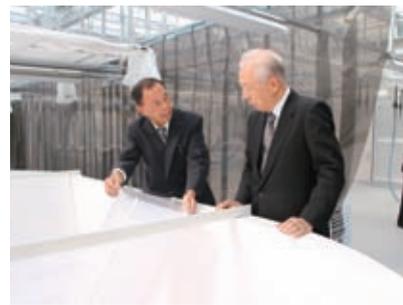
も成長を維持できる海水温の管理対策を施しています。また、カーテンも二重にして時期に応じた適切な採光も行い、春先に種苗がしっかりと成長できる状態に管理。こうして震災前の1.5倍近いノリ種苗30万枚を提供できる体制を整えています。

いろいろな可能性を視野に水産業の復興に貢献

「養殖のノリ種苗以外にも、アサリ種苗100万個体、ナマコ種苗10万個体、さらにアワビやウニの種苗の放流も考えています」と佐々木良さん。アサリやナマコなど天然の水産物は、水揚げ量が不安定なことがネックです。そこで

種苗を育て海に放流し、安定させていく計画を立てています。「これから町の未来を担う若い人たちが、養殖だけでなく天然のアワビなどの水揚げも視野に入れ、七ヶ浜の海でいろいろな可能性を思い描けるようにしたい」と佐々木さんは話します。

また、ノリ糸状体を培養する棚は大量のカキ殻で製作しますが、



完成した栽培種苗生産棟で説明を受ける有富理事長

安心・安定した医療の提供
それが町の復興につながる

2013年10月4日、公立小野町地方総合病院企業団（以下：小野町病院）が、2014年12月完成を目指す『小野町病院』の起工式を行いました。小野町病院の大和昭理事長は「地域復興のシンボルであるこの病院を中心に、保健、医療、福祉、介護の充実が図られるものと期待しています」と挨拶しました。

新病院は、警察や消防署が隣接

「これまでより質の高い医療を提供できる新施設に充実させ、地域のみならずより安全・安心に暮らしていただける病院を目指します」と藤井文夫企業長は話しています。

被災した福島県浜通り地方の医療機関は、いまだ診療再開の見通しが立っていません。今後、避難区域の見直しに伴い、徐々に自宅へと戻る住民が増えていく中で、いつでも安心して医療を受けられる新病院の完成を多くの方が心待ちにしています。

公立小野町地方総合病院企業団
(第5次助成) [公立小野町地方総合病院整備事業]
災害に強く、患者さんにやさしい
新病院へ



●建物概要
鉄骨造り(耐震構造Ⅱ類)、地上4階+塔屋階、敷地面積7897.17㎡、延床面積8533.45㎡

する町の中心地に、現在と同じ診療科目10科、病床数119床の体制を維持した地上4階建てで建設中。さらに震災の経験を活かし、災害時でも安定的な医療を提供できるように燃料、水の備蓄などのライフラインの確保を図り、1階待合室はトリアージスペースとして活用できる設計にしています。目指すのは、災害に強い病院、患者さんや地域住民にやさしい病院、そしてスタッフにも使いやすい病院です。

その作業を地元の方が行えるようにし、地元雇用の機会を増やせるように考慮もしています。

みちのく寒流のりのブランド化の推進とともに、町おこしの新拠点として多くの住民が期待を寄せる『七ヶ浜町水産振興センター』。これからのような可能性の種を蒔き、育てていくのか楽しみみです。



作業棟の実験室では、糸状体の成長や病気の原因を調査できる

私たちの賛助会費が活かされています ■ 障がい者福祉助成金

助成先レポート

Vol. 18

シイタケ栽培で稼ぐ！

いいものを作って売り切るまでが農業

社会福祉法人 明光シズヒロ会
社会就労センター いっすんぼうし
就労継続B型 (栃木県小山市)



いっすんぼうしのみなさんと。
後列右が、栃木支部田中執行委員長

立場の弱い下請けでは利用者の工賃を守れない。交渉の場にも対等に立てるように、下請け以外の収入が必要だと痛感した「いっすんぼうし」の選択は、シイタケの菌床栽培を柱とする農業。七転び八起きしつつも、前進を続ける作業所を訪ねました。

受注ゼロの大ピンチ

栃木県の南部、北関東の拠点である小山市。工業団地や農地に加え、新幹線で45分の利便性から、東京のベッドタウンになっています。この地に2006年に発足した「いっすんぼうし」は農業、とりわけ

シイタケの生産販売を武器に、障がい者の経済的自立を目指しています。

理事長の大家栄さんは地元で開業する歯科医です。治療に来る近隣の養護学校の生徒や保護者さんから「卒業しても行き場がない」「施設に通っても「給料はわずかば

かり」といった話をたびたび耳にし、一念発起。「働くことを大切に」するをポリシーに据え、社会福祉法人を立ち上げました。

当初から3年の間、もっぱら下請け作業が事業収入を支えました。しかし、下請け作業は発注量に波があり、単価の設定は相手次第です。それでも開設当初から一人平均月8000円を実現させていましたが、「ある年、3月で大口の発注がバタッとなくなってしまう」というピンチにぶつかつたんです」と語るのは、理事長の夫人で施設長を務める泰子さん。

そこから脱下請け依存の多角化が始まります。チーズケーキの製造販売を皮切りに、農業などにも手を伸ばし、シイタケの菌床栽培に辿りつきました。

シイタケ豊作…あふれる涙

シイタケを発生させるには、まず菌床を一晚、水に浸す「浸水」という作業が必要です。その後、温度と湿度を管理しながら時折水やりをします。すると浸水から7日程



助成で建てたハウス。ハウスのまわりは、ソバ、ニンニク、カンピョウなどの農地が広がる



シイタケの発生具合によって、菌床の場所を移動させ、収穫を行う利用者さん



楽しく働く喜びに、障がいのあるなしは関係ない



●ヤマト運輸労働組合 栃木支部執行委員長 田中克明さん

シイタケの菌床栽培について、素人なのでまったく知識がありませんでした。収穫をいっしょに少しお手伝いしたのですが、働いている方たちが、傘の開き具合や大小など、いろいろと真剣に教えてくださって感激しました。

主管支店には障がいのある方も雇い入れていますから、そうした人たちと接する機会はこれまでも持っていました。いつも一生懸命、仕事をしてくれています。ただ、どうしても職場に溶け込むのが簡単ではないところもあります。でも、いつも明るく元気に挨拶してくれて、声をかければ、彼らも返してくれる…。そんなとき、障がいのある・なしは関係ないと感じます。

明るく楽しそうに仕事をしている人たちを見ると、よかったなと思うし、助成金の行方をこうして直に知り、「もっと熱を込めてカンパ運動を盛り上げていきたい」そう思いました。



利用者さんに収穫の仕方を教わる田中委員長

大塚理事長の意気込みはますますみなぎっています。

「どう管理すれば、狙った時期に狙った量のシイタケを発生させることができるのが、難しく面白いところ」と言う大塚栄理事長



朝取りシイタケの収穫、納品

度でシイタケが発生し始め、複数回の収穫が可能です。一つの菌床からはだいたい60個、1kg程度のシイタケが収穫できます。2012年6月には当財団の助成金を活用して、シイタケ栽培用のビニールハウスを2棟新設して倍にし、大幅な売上増を狙いました。



一つのビニールハウスに4000床がずらりと並ぶ

「だけど、これがまた失敗だったんです」と大塚理事長。一度にたくさんシイタケが発生してしまい、売り先に窮したのです。結局500kg、売上にして50万円ほどを泣く泣く廃棄せざるをえませんでした。

「いいもの作れば必ず売れる。そう信じていました。でもその考えが間違いのもと。いいもの作るのは当たり前で、ちゃんと販路を確保すること、現金化の方法をしつかりと立てておくことの大切さを学びました」

この反省から市長に直談判を申し込む機会を得た大塚理事長。「福祉の向上と地産地消を促進する市の理解が得られ、市内の小・中学校・保育所の給食食材に採用していただけることとなり、直売所以外に大口販路を確保できました」と話します。

水を井戸水でまかない、温度調節も窓の開け閉めなどで対応し暖房をいりません。その分、シイタケの発生時期や量をコントロールするのは難しくなりますが、経費は大きく削減できます。また、地元の料理屋さん等の協力により直接取引で販売することで原価率を3〜4割に抑えることに成功しています。その甲斐あって、平均工賃は前年より約900



食品メーカーと契約した農地。「メーカーの基準に従って生産するので、全部買ってもらえるんです」と施設長の大塚泰子さん



「どう管理すれば、狙った時期に狙った量のシイタケを発生させることができるのが、難しく面白いところ」と言う大塚栄理事長



農業以外に手がける委託事業、クロネコメール便配達

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

お給料が増えるほど、 夢もふくらんでいく。

大阪府東大阪市、JRと近鉄線が乗り入れる河内永和駅から徒歩約15分。静かな住宅街の中にワークセンターひびきはあります。メール便配達事業を始めて9年目。一人一人のメイトさんの意識の変化や、お給料と仕事の関係についてなど、さまざまなお話を伺いました。

標を掲げています。お客様に喜ばれることや、ニーズに応えることが必要という想いは、「ワークセンターひびき」の運営にも生かされています。

電動三輪自転車で、安全配達。

障がい者の仕事は低賃金があたりまえ、という偏見がまだまだある時代。「ワークセンターひびき」では、

一般のメイトさんと同じ賃金であるメール便配達事業に、かねてから可能性を感じていました。ヤマト運輸からの声かけにすぐに応じて、2005年8月に事業をスタート。最初は営業車を1台登録し、自転車

で配達を始めています。しかし、事業所にあつた三輪自転車での配達をしてみると、メール便をたくさん乗せても安定感があることを発見。そこで電動の三輪自転車を3台購入して、現在の配達スタイルになったそうです。「いちいち自転車のスタンドを立てなくてもいいです



配達先を地図にマーク。毎日きれいに拭いて、更新します。

ボードに貼ってある挨拶の言葉。毎日確認します。



●北大阪主管支店 東大阪御厨センター

面積2.95km²/人口30,742人/世帯数13,926世帯

●社会福祉法人ひびき福祉会 ワークセンターひびき

2005年からメール便配達事業を開始。1日の平均配達数、約230冊。その他、ウエスの製造・販売など。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」

参入施設数 320施設 従事者数 1,617人(2013年10月現在)

お問い合わせは……(公財)ヤマト福祉財団 メール便担当

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

<http://www.yamato-fukushi.jp/>

持ち出し登録をしながら 仕分け開始。

し、強風や雨の日でも倒れません。メイトさんだけでなく、行き交う人の事故がないよう、安全第一で行っています」と、職員の山内崇洋さんは話します。

朝、9時。東大阪御厨センターに車に到着した3人のメイトさんは、すぐに担当エリアのメール便の持ち出し登録を開始します。いちばん広いエリアを担当しているメイトさんの速水行岳さんは、他エリアのメール便が紛れていないかをすばやく確認。配達ブロックに仕分けしながら、素晴らしい集中力で、番地順に重ねていきます。メイトさんの上田靖さんと前田健二さんはマイペース。それでも約10分で持ち出し登録を終え

速水行岳さんは、担当エリアが広いので、効率のよい配達順を考えて回ります。どんな坂道も電動の三輪自転車で、スイスイ。趣味は、プラモデルを組み立てること。



メール便を仕分けし、配達順に並べていく上田靖さん。



速水行岳さんは、担当エリアが広いので、効率のよい配達順を考えて回ります。どんな坂道も電動の三輪自転車で、スイスイ。趣味は、プラモデルを組み立てること。



パンク修理でおなじみの自転車屋さんで、元気に手渡しする前田健二さん(左)。いつも笑顔を決やしません。楽しみは、お給料でコンサートに行ったり、サッカーの本を買うこと。



駅前には混雑するので、ゆっくりと走るようにしています。急がないで余裕を持つことが、安全と確実な配達につながるのだとか。自転車で配達するのは、前田さん(右)と、彼を見守るように後ろを走る上田さん。



メール便をポストに入れる前に、住所をしっかりと確認する速水さん。

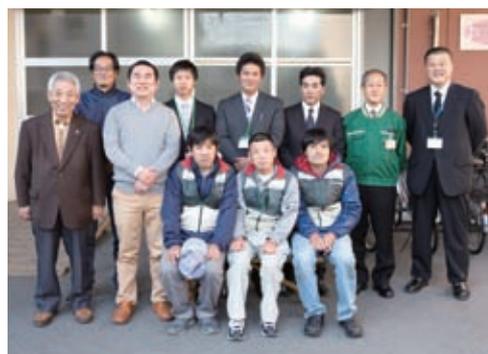
ヤマト運輸北大阪支店支店メール便課の新谷守課長は、「まじめな仕事ぶりに、やる気を感じます。ヤマト運輸にとって、パートナーシップを組む大きな存在です」と話します。また「大阪はもともと需要のある地域。メール便配達事業を増やしていきたい」と関西支店のメール便担当溝口大泰さん。そして、北大阪支店支店 東大阪西部支店の伊東勇二支店長は「今年は誤配はほとんどありません。大きな車の入れない細い道が

パートナーシップに今後も期待。

確認。そんなさまざま状況の変化についていけなくて、とまどうメイトさんもありますが、混乱しないように職員と一体となって取り組んでいます。不安なものはすべて持ち帰り、職員に渡すことを徹底して、誤配をほぼ無くしていると話します。

あるので、三輪車の配達は効率がいい」と、びびぎの仕事を誇りを評価。「密度の高い仕事をしてくれるので、これからも期待しています。ヤマトのチームでもありますが、安全第一で進めてほしい」と語ります。

「発想を変えなければ、メイトさんのお給料は変わりません。そのためには職員の勉強も必要だし、徹底してメイトさんを支えるという覚悟も必要です」と亀井理事長。障がい者の夢を表現させたいという想いが、人と社会に響いていくように。びびぎの取り組みは続きます。



前列向かって左から「びびぎ福祉会」理事長 亀井勝さん、「ワークセンターびびぎ」職員 山内崇洋さん、上田靖さん、前田健二さん、速水行岳さん
後列向かって左から「ワークセンターびびぎ」職員 安藤康二さん、ヤマト運輸関西支店メール便担当 溝口大泰さん、北大阪支店支店 東大阪西部支店 伊東勇二支店長、北大阪支店支店メール便課 新谷守課長、ヤマト福祉財団 関西支店 石田久雄事務局長、関西支店メール便担当 野道康マネージャー

番地の1つ違いも見逃さず、確認。

メイトさんの速水さんは、多い日は1日200冊も配達することがあるほど、広いエリアを一人で担当しています。始めた頃から地図を家に持ち帰り、配達エリアを復習するなど、とても熱心。今では何番地何号

の最後の数字が1つ違っているのも見逃さず、職員に報告します。

責任意識が生まれて、明るくなる。それが仕事のチカラ。

「旧番地表記のメール便も、これはどこの何番地のものだよと言いなから、渡してくれませう。古い地図で確認していますが、速水さんがしっかりとっているの、とても助かります」と職員の安藤康二郎さん。

マンションの多い地域は、配達中の盗難を防ぐために、前田さんと上田さんの二人ペアで配達します。また、新しい住宅にはローマ字表記の表札が多いため、ローマ字を読むのが不得意な前田さんを上田さんがサポート。番地を前田さんがしっかりと確認して、一人でポストイングします。

増やしてあげたいという思いを強く持つそうです。

「最近ではインターネット注文の品が増えたせいか、ポストに入らないものが多く、不在票が必要です。ポストがないお店への対応。転居が多く、名前の表示もないアパートの配達先



「社会福祉法人びびぎ福祉会」亀井勝理事長。「精度が高く、きちんと納期を守る仕事は、健常者と同じ賃金であるべきです。そのためには、確実な仕事をすること。私たちは、土日もメール便を配達しています。ニーズにしっかりと応えることが重要です」



職員 山の山内崇洋さん。「花見や運動会などのイベントに参加するの、みんなが『配達する』と言います。仕事に前向きになったと感じます。給料日にはみんなで食事に行ったり、買物につきあうことも。プラモデルを大人買いして、うれしそうな顔を見ると、こちらも幸せになります」

いぶきの風は10月23日に戸塚公会堂で60名の来場者を迎え報告会を開催しました。

日々のクロネコメール便配達の様子をスライドショーで紹介しながら、2名のメール便リーダーを中心にメール便配達に携わる14名のクロネコメイトさんから報告がありました。

いぶきの風はクロネコメール便配達を開始してから約2年がたち、新しいメンバーが加わりました。

本人報告では、メイトさんたちがどのようにしてメール便配達ができるようになっていったのかということや、メール便を配達するときの手順、誤配・未配達を防ぐためメモをとるなどの工夫や、やりがいを感じていることなどを発表しました。

配達担当地区は坂道



が多く起伏の激しい地域なのですが、徒歩で配達しているため、夏場やメール便が多くて重いときは大変です。

しかしこれからも間違いなく配達するよう努力していきますとの言葉に来場者は大きな拍手を送っていました。

10月29日には、そよかぜ福祉作業所が益城エリムキリスト教会で、地域の方々約50名を集め報告会を開催しました。

地域の理解を得ようとクロネコメール便配達を始めて今年で7年目。毎日休まずメール便を配達しています。

4名のクロネコメイトさんからは、配達先の方々から「ありがとう」や「ご苦労様」と声をかけてもらうことがとてもうれしいということや、誤配をしないように、雨の日は濡れないよう



に工夫をしていることなどを報告しました。

そして笑顔を絶やさず、休むことなくこれからも続けていきたいと来場者に報告しました。



コスモス共同作業所は11月12日に鴻巣市市民活動センターで報告会を開催。当日は利用者や地域の住民の方、他施設の方々など99名も集まりました。

最初にビデオを上映し、クロネコメール便配達の日を紹介。確認をしながら一冊一冊大切に配達する様子が伝わってきました。また、配達時の注意事項を連絡ノートで、メイトさん同士が情報交換をしていることや、メール便配達を通して成長できたことを朗読劇で発表しました。

来場者はその取り組みに熱心に耳を傾けていました。



現在、320カ所の施設で約1600名もの障がいのある方々がクロネコメイトさんとしてメール便配達に従事しています。そのなかから地元での「クロネコメール便配達本人による特別報告会」の開催を希望する施設を公募し、ご応募いただいた3カ所の施設が報告会を開催しました。

クロネコメール便配達 本人による特別報告会

私を
待っていて
くれる人が
います。

倉庫管理からデスクワークまで 頼れる所長の右腕です



まじめで几帳面な性格を評価され、倉庫管理を一手に任されている清水尚幸さん。伝票作業のデスクワークもそつなくこなしています。

掛札健一所長と清水尚幸さん(左)

■ヤマト自立センター スワン工舎新座 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

■渡辺パイプ株式会社 住宅や町づくりに必要とされる管工機材、住宅設備機器、電設資材などを販売。全国の事業所で障がいのある方の採用を進めています。



自分のデスクで、出荷伝票の作成や受領書の連番整理を行う



入荷した在庫商品を倉庫へ



伝票を見ながら出荷商品をピッキング

■清水尚幸さん 渡辺パイプ(株) 新座サービスセンター(平成25年4月16日入社) 午前・午後の2回、出荷商品を配達車に積み込み、在庫商品は倉庫内に整理します。その後、デスクで受領書の整理などの事務作業を行います。「この仕事を長く続けたい」と清水さん。



清水さんの勤める新座サービスセンター

丁寧な仕事振りがセンターの評価向上にもつながりました

「清水さんの仕事を一言で言うとうまく倉庫の番人です」と掛札健一所長。渡辺パイプ(株)新座サービスセンターでは、水道工事や設備工事業者向けに管工機材、建材などを入荷・管理・発送します。清水さんは、サービスセンターに届いた商品を倉庫に運び入れ、決められた棚に整理整頓。出荷時には伝票を見ながら注文を受けた商品をピッキングし、配達車に積み込んでいきます。

「どこになにを置くか、覚えるのは大変です」と清水さん。それもそのはず商品の数はなんと40000点以上!それでもそれぞれの商品が、どういうところに使われ、役立てられていくのかを勉強できて面白いと話します。

清水さんの勤務時間は8時30分〜17時30分、時給は800円。土・日曜の休日の楽しみはドライブです。「先日は、兄に立川の昭和記念公園へ連れて行ってもらいました」。友人と秩父のお祭りにも出かけるなど、オンもオフも充実しています。

清水さんには、もう一つ大切な仕事があります。それは出荷伝票の作成や受領書の連番整理といったデスクワークです。「ピシッときれいに番号順に並べられていて、驚きました。特に受領書は、お客さまとごなかトラブルがあった際に、直ちに照合ができるように整理できていなければ役に立ちません。清水さんがきちんと受領書をまとめてくれていますから、年2回行われる内部監査で、当センターはその点も良い評価を受けました。清水さんは勤めてまだ半年ですけど、いまでは頼れる私の右腕です」と掛札所長はうれしそうに話しています。



「伝票整理は私より丁寧」と話す掛札健一所長



葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 大判錦絵 天保2年(1831)頃
東京都江戸東京博物館蔵 展示期間：1/2(木)～2/2(日)



重要文化財
東洲斎写楽「3代目大谷鬼次の江戸兵衛」大判錦絵
寛政6年(1794) 東京国立博物館蔵
展示期間：1/15(水)～26(日)



Information of the Art

「大浮世絵展」 国際選抜約340点による 浮世絵の全史通覧・全貌紹介

菱川師宣「見返り美人図」 絹本着色 元禄(1688-1704)前期
東京国立博物館蔵 展示期間：1/28(火)～2/16(日)

「国際浮世絵学会」
創立50周年記念展示

日本が世界に誇る浮世絵は、江戸時代の初期に始まり、歌麿、写楽、北斎、広重などのスター絵師の活躍や、強烈なインパクトを放つ国芳らの登場を経て、小林清親や橋口五葉などの近代の画家に引き継がれました。

本展は、浮世絵研究の成果を世界に発信している「国際浮世絵学会」の創立50周年を記念して、浮世絵の名品を日本国内および世界各地から一堂に集めるものです。好事家ならずとも目にしたことのある代表的な作品約440点により、浮世絵の全史を通覧。まさに浮世絵の「教科書」、国際選抜となる展覧会です。(東京会場には約340点が展示されます。展示替あり。)

初期から黄金期、展開期、そして明治時代への全史通覧

会場では、「浮世」を初めて絵画の題材として取り込んだ江戸時代初期の風俗図屏風を筆頭に、菱川師宣の初期浮世絵から、歌麿・写楽が登場した「黄金期」、北斎・広重・国芳が活躍した「展開期」、そして文明開化に沸く明治時代の新聞錦絵、橋口五葉が描いたモダンな女性まで、時代を追ってご紹介いたします。版画だけでなく、肉筆画も多数展示するとともに、大首絵、役者絵、相撲絵、上方絵などの浮世絵が持つ多彩なジャンルも網羅し、浮世絵の全貌を紹介いたします。

本展の美術品取り扱いにヤマトロジスティクス(株)が協力しています。

開催期間▶2014年1月2日(木)～3月2日(日)
休館日▶1月6日・27日、2月3日・10日・17日・24日
開催場所▶江戸東京博物館 1階展示室
アクセス▶●JR 総武線「兩國」駅西口、徒歩3分
●都営地下鉄大江戸線「兩國(江戸東京博物館前)」駅A4出口、徒歩1分
●都バス：錦 27・両 28・門 33・墨 38 系統
「都営兩國駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分
●首都高速6号 向島線駒形出口、7号小松川線錦糸町出口より約10分
開館時間▶午前9時30分～午後5時30分※土曜日は午後7時30分まで。※入館は閉館の30分前まで

入館料▶

	一般	大学生・専門学校生	小・中・高校生・65歳以上
特別展専用券	1,300円	1,040円	650円

○次の場合は観覧料が無料です。未就学児童。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)。
問い合わせ先▶
展覧会公式ホームページ <http://ukiyo-e2014.com>
主 催▶公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、国際浮世絵学会、読売新聞社
協 力▶日本航空
巡回情報▶名古屋博物館 2014年3月11日(火)～5月6日(火)
山口県立美術館 2014年5月16日(金)～7月13日(日)

ご協力ありがとうございました。スワンのクリスマスケーキ

2013年12月。スワンのクリスマスケーキの販売個数が、96,430個となりました。全国のヤマトグループのみならず、ご協力ありがとうございました。これからも、みなさまに喜んでいただけるご提案をしていきます。



日本も国連障害者権利条約を批准します

障がい者の差別禁止や社会参加を促す国連障害者権利条約の批准について、2013年12月4日国会で承認されました。

ヤマト福祉財団は、平成16年から、損保ジャパン記念財団、キリン福祉財団とともに障がいのある方々にとってより良い権利条約となるように、国連に参加出席したNGO「日本障害フォーラム」に対して10年に渡り共同助成しました。今後は、条約の完全実施にむけて国内での周知・理解が進むことが期待されています。

